



はらじゅくかわら版

新年号

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



謹賀新年



当院7階から撮影

第43号 目次

院長の言葉	1
地域医療連携	2
泉区医師会会長挨拶	
特集 - 医師が語る疾患 -	3
第二回 膵癌 統括診療部長(外科) 関戸 仁	
行事紹介	4
本年もYMAT(横浜救急医療チーム)連携訓練に参加しました	
病診連携の集い	
戴帽式	5
楓葉祭について	
クリスマスコンサートの報告	6
年男・年女	7
連載 職員リレー紹介	9
第2回 褥瘡防止対策チーム	

お知らせコーナー

- 地域完結型医療 / 紹介状が必要な理由
- 地域医療支援病院として / 七草粥
- 外来担当医表 / 編集後記

発行 月：平成26年1月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：工藤 一大
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 FAX : 045-851-3902
 URL : <http://www.yokohama-mc.jp>



●当院携帯サイトはこちらから

院長の言葉

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年の干支は午です。午(馬)は縁起のいい動物で、午年は物事が“うま”くいく、幸運が駆け込んでくるといわれているようです。去年は巳年で、金運に御利益があるということでしたが、皆様はいかがでしたでしょうか。



院長 工藤 一大

さて当院は地域の災害時の拠点病院として、大災害時の医療体制の確保のための対応策を検討し、充実を図ってまいりました。停電時の非常発電装置としては重油を使用する装置があり、2011年3月の計画停電時には外来・入院診療や手術室の機能維持に有用でありましたが、さらに充実した非常発電装置として都市ガスによる発電装置の設置が決定し、工事が始まりました。これは非常用発電機兼用ガスコージェネレーションシステムと呼ばれ、発電+排熱利用でエネルギーを有効利用でき、契約電力を低減して電力料金を節約し、系統からの購入電力を削減する事ができ、節電に寄与するとされるものです。

また当院はがん医療に力を入れてきており、がん診療機能の充実、セカンドオピニオン外来の設置、緩和ケアチームによる身体と心の痛みへの支援、がんに関する相談支援センターの設置などを進めてまいりました。このような診療・支援体制が認められ、昨年4月より神奈川県がん診療連携指定病院と認定されました。今後もより一層がん医療・患者支援の充実に向け努力していく所存であります。

日本の医療政策は、所謂団塊の世代が75歳を迎える2025年問題を見据え、大きく変わろうとしています。地域完結型あるいは地域包括ケアといわれる、地域で急性期医療から亜急性期、回復期、慢性期、介護サービス、在宅医療などを行おうとするもので、それぞれの施設の機能分化と密接な連携が必要となります。当院も地域の医療機関、介護サービス部門などと益々連携を強化し、これに対応しようと検討をしております。

当院の理念であります「患者中心の医療」、「地域完結型医療」、「地域で選ばれる病院」をこれまでも目指して努力してまいりましたが、これからも一層努力し、地域の関係医療機関や行政とも密に連携して「医療の質と安全」の向上に積極的に取り組んでまいります。今後も当センターへのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



地域医療連携

泉区医師会会長挨拶

新年明ましておめでとうございます。泉区医師会長の鈴木正比古です。平素より横浜医療センターの皆様には、大変お世話になっております。私は昭和52年に大学卒業4年目、当時の国立横浜病院に赴任し、整形外科部長小林昭先生に1年間厳しく鍛えて頂いたのが現在の私の技量の礎になっています。しかし当時の病院は昭和18年に発足した旧戸塚海軍病院の建造物で非能率的な設備の中で職員の皆様は頑張っていました。2004年には独立行政法人国立病院機構横浜医療センターに名称変更され、さらに2013年には機能的な新病棟が完成し病院を支える優秀なスタッフも充足され、今や近隣の病院、診療所にとって頼もしい存在として、紹介率80%、逆紹介率60%超えの実績を誇っています。



泉区医師会会長
鈴木 正比古

泉区医師会は旧戸塚区医師会から栄区と共に昭和62年に分離し、(分区は昭和61年)昨年設立四半世紀を迎えていますが、他区の医師会、横浜市医師会と同じように今年4月から一般社団法人泉区医師会となり、住民、行政、診療所、基幹病院4者の益々の太いパイプ役になるべく精進しています。

最近病診連携が確固たる絆を築く中で、横浜市の夜間診療の一次救急治療の要として、南西部夜間救急センターがあり、桜木町、北部と共に13年前より一翼を担っていますが、近隣の病院の中では特に横浜医療センターが紹介病院として重要視されています。今年も又重症化したインフルエンザ等のため益々紹介が増えますので宜しくお願いします。

3年前の東日本大震災の教訓を踏まえて近々発生すると危惧されている「南海トラフ地震」に対して幾つかの中学校を救護拠点とした災害対策があり、期限の切れた大量の医薬品等の在庫管理が指摘されています。対策の基本は軽傷に対して稼働できる診療所及び区内で診療可能性の濃淡に対応して構成する医師を含めた救護隊で対処し、中等症に対しては区内の病院、重症に対しては災害拠点病院として横浜医療センターの担当となり、横浜市医師会と各医師会、各区役所内の福祉保健センターとの間で通常連絡手段が遮断された場合には衛星電話で連絡を取りながら、医療アドバイザーを交えて、更にはDMAT(災害対策医療チーム)と連携していきますが、横浜医療センターの役割は極めて重大で、三月末に向けて行政を交えてより緻密な組織作りに励んでまいります。

今年も病診連携、各科の勉強会、講演会を通して横浜医療センターの医師、看護婦、事務の方々を益々太いパイプで繋げるように努力しますので、宜しくお願い致します。

鈴木整形外科



スタッフと鈴木院長

診療科目：整形外科

〒245-0013 横浜市泉区中田東3-2-8
TEL：045-804-1155

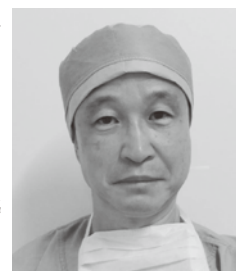
診療時間	受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:30	午前 8:30～12:15	●	●	●	/	●	●	/
午後 15:00～19:00	午後 14:30～18:30	●	●	●	/	●	●	/

休診日 木曜・日曜・祝祭日

第2回 膵癌

統括診療部長 (外科) 関戸 仁

膵臓は腹部の最も奥にあるため症状が出にくく、膵癌に特徴的な症状が無いいため診断が遅れがちです。膵臓自体、薄く細長い臓器であるため、胃癌大腸癌では小さいとされる2cm程度の大きさの癌でも膵臓から外に広がります。膵背側に漿膜がない、膵周囲に重要な血管が多数存在する、などの理由で切除不能となりやすいとされています。このような膵臓に発生する膵癌は、胃癌大腸癌など他の消化器癌に比較して著しく治りにくい癌とされてきました。その認識は現在でも大きく変わることはありませんが、ここ10年ほどでその治療成績は徐々に改善してきております。以下に示す3つの要因がその改善に寄与していると考えられています。

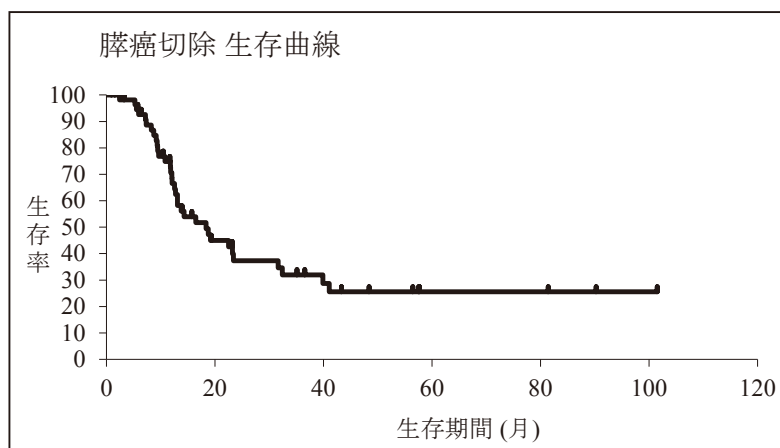


第一は、診断の進歩です。US (超音波検査)、MD-CT、MRI、PETなど新しい画像診断機器は、膵癌の早期診断に有用です。一般的にはまずUSが施行されますが、膵ダイナミック造影CTが小膵癌の診断の第一選択とされています。小膵癌は通常の造影CTでは描出できないことがあり、膵癌を疑う場合には、膵ダイナミック造影CTを依頼していただくよう開業医の先生にはお願いします。さらに疫学研究の進歩により、膵癌発症の危険因子が明らかにされています。第1度近親者(親、兄弟姉妹、子)に膵癌がある人、糖尿病、特に2年以内に新たに発症した糖尿病、膵嚢胞、アルコール、喫煙などに加え、肥満も危険因子とされています。また、1か月以上持続する背部痛、糖尿病のコントロールが急に不良となった方は、一度膵臓癌の検査を受けることをお勧めします。

第二は、がん化学療法の進歩が挙げられます。これには、Gemcitabine (ジェムザール)、S-1 (ティーエスワン)などの新規抗癌剤の開発、複数の抗がん剤を組み合わせるFOLFIRINOX (11月現在、薬事未承認)という治療方法の開発が挙げられます。また、抗がん剤の主な副作用である、悪心嘔吐を強力に制御する制吐剤の開発、下痢やしびれ(末梢神経障害)などに対する対策が確立し、効果的に薬剤を使用することが治療成績を向上させました。また、手術後に抗がん剤治療を行うことで術後の生存率が明らかに向上することもわかってきました。

第三に膵臓外科の進歩です。膵臓は膵液という消化液を分泌しています。膵液はアミラーゼを中心とした強力な蛋白分解酵素を含み蛋白の消化吸収を担っています。膵臓手術では膵を切開縫合するため、膵液が漏れることが問題で、膵液が腹腔内に漏れると高度の炎症を起こすとともに、蛋白質で構成されている周辺臓器を消化するに至ります。膵周囲には重要な大血管があり、この血管が消化されると大出血を起こし、致命傷となります。このことが膵臓手術は腹部手術の中で難しい手術の一つと言われる由縁です。しかし、手術手技の向上により徐々に安全性が増してきています。さらに、精緻な手術を可能にするための手術機材の進歩が膵臓手術を発展させています。細かい縫合を可能にする針糸、出血を制御する機器の開発などにより、膵臓手術はますます安全確実なものとなっています。以上まとめると、膵癌にかかりやすい方に膵ダイナミック造影CTで小膵癌を検出し、より早期の段階での治療を可能にしたこと、副作用を極力抑制した状態で膵癌に有効な抗がん剤を使用すること、最新の機器・材料を使用して膵臓手術を安全確実にこなせるようになったことで、膵癌の治療成績はここ数年めざましく向上しています。図は当院外科における膵癌手術治療成績です。本邦のがん治療施設に引けを取らない成績と考えています。

膵癌は不治の癌とされてきましたが、徐々に治る癌になりつつあります。しかし、多くの患者さんが手術不能な状態で診断されているのも現状であり、先に述べた危険因子をお持ちの方で、1か月以上持続する背部痛、糖尿病のコントロールが急に不良となった方は、一度膵臓癌の検査を受けることをお勧めします。



行事紹介

今年もYMAT(横浜救急医療チーム)連携訓練に参加しました

集中管理部長 宮崎 弘志



大島やフィリピンで発生した風水害は記憶に新しい所ですが、災害時には消防、救急、そして医療機関が連携して活動する事が必要となります。しかし、円滑に連携を成すための訓練はなかなか行う事ができません。その様な時に、旧戸塚区総合庁舎を舞台に、実地に即した訓練を10月18日に行う事ができました。

大地震に伴い火災、閉じ込めが発生したという想定で、戸塚区役所職員による通報、消火活動、引き続き横浜消防局から救助隊、消防隊、救急隊の出動がなされました。私たち横浜医療センターYMATチームは現場に急行し医療活動を行う役目での参加でした。医師3名と看護師2名で構成され、今までも実際に出動しています。ただ、大半は1、2名の傷病者が対象ですので、大災害時の多人数傷病者という状況は未体験です。

訓練は庁舎2階の床に穴を開け、そこから1階に閉じ込められた被災者を救出する大掛りかつ、ダイナミックなものでした。1階は中が見える様にしてあり、多くの見学者に訓練内容が良く見えます。消防職員の解説があり、救助活動に対する理解を深める事が出来るものになっていました。

職員による初期消火の放水が行われ、鎮火後、2階床に開けた穴から遠隔カメラで観察を行い、安全を確保して救助隊が進入、救助路を確保した後に私たち医療チームが2階から1階に降下して救助にあたりました。被災者の重症度に応じて初期治療を行い、必要があれば点滴などを施します。搬送順序を決定して、救助隊、救急隊が安全かつ迅速に被災者を救出していきます。重症者は担架に乗せて、自力で動ける人は搬送帯で天井の穴から救出されました。医療チームは被災者の再診察と適切な医療機関への搬送指示を出して訓練は終了しました。

所属の異なる複数のチームが連携を取りながら活動を行う訓練は貴重な体験で、私たちを含め、参加者全員が大きな成果を得ることができました。今後も機会があるごとに訓練に参加する予定です。



「病診連携の集い」

地域中核連携室長 奥津 正仁

□病診連携の集い

昨年11月14日、横浜医療センター附属横浜看護学校において「病診連携の集い」が開催されました。参加されたのは、当院に登録医として登録していただいている地域の医療機関の先生方です。登録医の先生方は、当院との密接な連携と協力により、良質な医療を地域に提供することを目指して当院と一緒に取り組んでいただいています。

当日は、「がん診療連携パス」や「摂食・嚥下外来」など、当院の日ごろの取組みが報告されました。また、各診療科の医師からは、それぞれの診療科の特徴等について紹介があり、先生方との情報共有が行われました。

(登録医は、横浜医療センターのホームページに掲載しています)

医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指す」ことを理念として掲げています。





平成25年10月11日に第51回生戴帽式が、本校体育館にて行われ、厳粛な雰囲気のもと、戴帽生84名にナースキャップとエンブレムが授与されました。

戴帽式とは、看護師の象徴であるナースキャップを戴き、ナイチンゲール像より受け継いだ灯りを手に、看護の道へ進む決意を新たにす儀式です。戴帽式を迎えるにあたり、学

生たちは、看護とは何か、自分たちはどのような看護師を目指したいのかを話し合い、「誓いの言葉」を作成しました。

戴帽式当日は、緊張しながらも息を合わせ「誓いの言葉」を暗唱し、ナイチンゲール賛歌を歌いました。

51回生が大きな希望と少しの不安を胸に入学し、約9か月が経ちます。学生たちは日々、解剖生理学や看護学の学習を通して、聞きなれない専門用語や技術練習に取り組み、看護師となるための基礎を固めてきました。今後は、これまでに学んだことをもとに、専門領域の学習や実習など、より実践に近い学習に取り組み、看護師としての専門的な知識や技術、態度を身につけていきます。

学生たちが、灯した火を絶やすことの無いよう育て、目指す看護師像に近づいていけるよう、教職員一同一層努力し、支援していききたいと思います。

皆様も、51回生を今後も温かく見守り、ご指導いただけますようよろしくお願いいたします。



51 回生誓いの言葉

私たちは 患者さんを 常に見守り
その人らしく生活できるよう 支えます

そして 患者さんの 笑顔の花を 咲かせられるよう
あたたかい太陽のような 看護師を目指します

患者さんが 病に苦しみ 辛く 不安な時だけでなく
回復の喜びを感じるときなど いかなるときも
患者さんの心に寄り添い 悲しみも喜びも共に分かち合い
患者さんを尊重する姿勢を忘れません

人の命に 深く関わる
看護師という職業の責任と誇りを自覚し
正しい知識と技術を身につけられるよう 努力し続けます

看護の道を進むなかで
ときには 自分の未熟さに もどかしさを感じ
立ち止まることが あるかもしれませんが
しかし その時は 同じ志をもつ 仲間たちと
支え合い 励まし合いながら 一歩ずつ進んでいきます

私たちは 臨床の様々な場面で 対応できるよう
日々学習し続け 患者さんに 心から信頼される
知識と技術と心をもった 看護師になります

私たちは 今
ここにお集まりいただいた 皆様の前で
自分自身に誓います

第 50 回 楓葉祭



今年の楓葉祭は「前進」というテーマを掲げて記念すべき第50回の学校祭の準備を2年生を中心に進めてきました。しかし、10月26日は関東地方へ台風の接近という情報から、学校祭へ来て下さるお客様の安全を第一に考え、残念なことに開催2日前に急遽11月30日へ延期という判断を泣く泣く下しました。

前夜祭は10月25日予定通りに行い、「台風の影響で講師の先生が来校できなかつたらどうしようか？」と、ハラハラしながら茨城大学の新井英靖先生の到着をお待ちしました。

「人生について～看護者としての役割と生き方～」というテーマでの講演会を聞き、学生一人一人が自分の人生や患者さんの人生に思いをよせ看護していくことの大切さについて深く考えさせられた講演でした。

いよいよ11月30日、学生たちが待ちに待った楓葉祭当日は、天気も良くてたくさんの方が来校してくださいました。各学年の学習展示では、1年生では骨密度の測定、2年生は手浴、3年生は患者体験を企画し、各学年がそれぞれ工

夫を凝らし実際に来校してくださった方に経験していただきました。また、各模擬店では、3学年が力を合わせ模擬店を企画、運営し地域の方にも好評でした。この楓葉祭で、チームで活動することの大切さや面白さなどたくさんのことを経験できました。看護はチームで活動します。今回のこのチームでの活動経験をこれからの学校生活や実習などで生かして欲しいと思います。

お忙しい中ご協力いただきました職員の皆様にも大変感謝しております。ありがとうございました。



クリスマスコンサートの報告

職員係長 出井 洋平



されている「ハーモニグリーン」によるクラシックギターのアンサンブルでした。クリスマスメドレーを5曲披露いただき、クリスマスの雰囲気がぐっと高まりました。

次は昨年引き続き、当院放射線科の倉島副技師長によるマジックショーでした。普段は病院と老人ホームでしか披露されないそうですが、経歴20年の技で、観客の皆さまにはとても楽しんでいただきました。

最後に、高校1年生の原田和孟さんによる津軽三味線の演奏でした。全国大会で多数の受賞歴がある方で、「津軽よされ節」などの4曲が披露されました。三味線一本で演奏される曲の迫力に圧倒され、会場の雰囲気がピーンと張りつめた後、観客の皆さまから大きな歓声が上がりました。

大盛況のなかコンサートは終了いたしました。観客の皆さまからは、たくさんの笑顔や「よかったよ」というお声をいただきました。ありがとうございました。

また開催にご協力いただいた方々、特に外部から出場していただいた方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。

去る12月20日(金)、横浜医療センター医療サービス推進委員会主催のクリスマスコンサートを開催いたしました。

病院1Fのエントランスホールにて、約1時間にわたり4つのプログラムが披露されました。入院・外来の患者さまやご家族の皆さまにお集まりいただき、和やかな雰囲気のなか、例年にも増して一体感のあるコンサートになりました。

まず、当院の研修医ユニットによるフルート・ピアノのアンサンブルから始まりました。聞き馴染みのあるジブリ映画のテーマ曲やクラシックなど、5曲が披露されました。

次は、大正地区のコミュニティーサロンで音楽活動を



年 男 ・ 年 女



西4病棟
工藤 美咲

看護師として働いてはや三年目になります。去年はスタッフのメンバーの一人として働くだけでなく自ら進んでリーダーシップをとる年であり慣れないリーダーシップに苦戦し、より自覚を持って働くという意識が高まった年でもありました。

今年は四年目になり、スタッフ間のチームワークを大切にしてより周りを見て行動しリーダーシップを発揮できるよう努力していきたいと思います。

またプライベートでも日々健康に気をつけ、笑顔で過ごせる一年にしたいと思います。



薬剤科
長島 愛

横浜医療センターで働き始めて、あっという間に今年で4年目を迎えます。社会人となってだいぶ経ちましたが、まだまだ分からないことも多く、いつも周りに助けられています。昨年薬剤科は6名増員となりだいぶにぎやかになりました。病棟薬剤業務実施加算の算定開始に伴い、7月からは薬剤師が各病棟に常駐し業務を行っています。病棟にいる時間が長くなったことにより、薬剤師に求められるものを以前より意識するようになりました。様々な部署のスタッフとコミュニケーションをとり、協力し今年は薬剤科の業務をより発展させていきたいと考えています。健康に気を付けて、今年も楽しく充実した一年となるようがんばりたいと思います。



東4病棟(小児)
田中 瑞希

昨年から、看護師1年目として大好きな小児科に配属になり毎日楽しく働いています。沢山の先輩に丁寧かつ優しく時には厳しくご指導して頂き感謝の気持ちで一杯です。

小児病棟は自分で症状を訴えることができない子ども達が沢山入院しています。そのため今年はずっと観察力を身につけさらにその子に合った個別性のある看護ができるよう一日一日を大切にしていきたいと考えています。

そして、私自身の看護を振り返り見つめ直したいと思っています。これからも患者さん中心の看護が行える様に専門的知識や経験をこれから沢山つんでいき頑張っていきたいと思っています。



西5病棟
渡辺 結香

横浜医療センターへ入社して早くも2年目となりました。入社したての頃は分からないこと・不安なことばかりで、初めはどうなることかと思いましたが、無事後輩もでき自分の体力とも戦いながら毎日楽しく働いています。2年目になり、自分が1年目で経験出来なかったことを先に後輩が経験してしまうなど焦ることもたくさんあり、楽しい反面、後輩に追いつかれないよう日々勉強していかなければ…と実感する毎日です。

今年は年女ということなので、昨年よりもさらに運が舞い込むよう日々笑顔で過ごしたいと思います。



リハビリ
渡辺 雄飛

宮城県の仙台市から言語聴覚士としてのキャリアをスタートし、その後は東京都と千葉県での病院勤務を経て、約2年前から生まれ故郷の横浜市に戻ってきました。言語聴覚士は他のリハビリテーション専門職と比べ全国でも人数が少ない職種です。主な仕事はことば(言語)や聞こえ(聴覚)、食べる・飲み込む(摂食・嚥下)のリハビリテーションを担当します。言語・聴覚・嚥下機能に障害のある方がコミュニケーションや食事の楽しみを取り戻し、自分らしい生活を送れるよう支援していきます。今後も少しでも患者さんや、患者さんを支える周囲の方々のお役に立つことが出来るように日々仕事に取り組んでいきたいと思っています。



リハビリ
篠崎 明寛

昨年は1964年以來の夏季オリンピックが東京と決定されました。震災後の日本にとっては明るいニュースになったのでは思っております。さて私事では、去年の今頃は世間の正月ムードとは隔絶し、国家試験に向けた勉強に勤しんでおり暗澹たる心持でありました。しかし、今年は理学療法士としての初年を素晴らしい職場で素晴らしい諸先輩方と仕事を出来ていることを誇らしく思うと同時に、晴れやかな気持ちで一杯です。この恵まれた環境で明るいニュースをひとつでも作り出していければ良いと考えております。



東6病棟
石神 早紀子

昨年は、2年目としてメンバーシップをどのようにとっていけばいいのか、また1年目の頃とすると少し周りが見えてきて今何が必要なのか意識して行動するようになりました。SCUから病棟へと異動もあり、慣れないこともあります。チームとして患者さんによる看護が出来るように頑張りたいと思います。今年は、3年目としてですが知識や技術を身につけながら自分がこの先どういったことにチャレンジしていきたいのか考えていこうと思います。また新しい1年生が入ってくるのでプリセプターをする機会があれば精いっぱい頑張りたいと思います。



東5病棟
畠山 明日香

看護師3年目となり、4月からプリセプターとして1年目の指導をするようになりました。業務にも慣れてはきましたが、まだまだ学ぶことも多く、自分達が本当に1年目をしっかり育てていけるのかという不安もありながら、先輩方にも協力してもらいながら同期とともに思考錯誤をしながら日々励んでいます。

忙しい日々ではありますが、今年はプライベートを充実させていきたいと思っています。何かどっぷりハマれる趣味をみつけて、仕事とプライベート両方を充実させていい1年にできたらと思います。



東3病棟
鈴木 未沙

今年の4月にて3年目看護師となります。私の所属している救命センターでは、多種多様な患者様が入院となるため、数多くの知識や技術、個別性のある看護を学び得ることができました。しかし、患者様の在室日数が短いため、その中での気づきや看護の関わり方が大切であり、今後も大切にしていきたいです。今後、3年目として後輩への指導や新たな業務に携わっていく年だと思うので、プライベートでは思う存分に息抜きをして、今後も笑顔と馬力で精進していきたいです。



西7病棟
山内 照美

神奈川病院より昇任で横浜医療センターに配属になり2年がたちました。西7病棟は、消化器・泌尿器・耳鼻科・歯科口腔外科の混合病棟となっています。その為、入退院が多く目まぐるしく一日が流れており、日々スタッフに助けられながら過ごしています。入院患者さんは、消化器の癌の方も多く、患者さん家族の方の気持ちにより添う看護心がけています。昨年は6人の新人を迎え成長していく姿を見ていると心強く感じます。本年も色々な事があるかと思いますが、日々笑顔でスタッフと共に良い看護を提供していきたいです。

第2回 褥瘡防止対策チーム

皮膚・排泄ケア認定看護師 熊井 佳代

みなさん、オレンジ色の白衣（スクラブと言います）を着て病院内を回っている集団を見かけたことはありませんか？

昨年8月から『褥瘡（じょくそう）防止対策チーム』ではメンバーの結束を強くするためオレンジ色の衣装を揃えました。患者さんだけでなく、医師、看護師、その他大勢の医療スタッフの注目を浴びながら、「まぶしい！」「なんでその色にしたの？」「似合うわね」などさまざまな意見を頂きながら活動を行っています。

『褥瘡防止対策チーム』の主な活動を紹介する前に、少し褥瘡についての説明をさせていただきます。

褥瘡とは「床ずれ」とも呼ばれ、ベッドのマットや布団、車いすなどと接触する部分の皮膚が長い時間続けて圧迫されることで、皮膚やその下にある組織が壊れてしまった状態のことを言います。形や大きさ、深さは状態によってさまざまです。褥瘡は、日中のほとんどの時間をベッドや車いすで過ごし、自分で寝返りを打ったり、姿勢を変えることが困難な人や関節が伸びないで固まっている人、食事を十分にとれない状態が続いている人などにできやすく、褥瘡を予防するために体位変換（身体の向きや姿勢を変えること）をしたり、体圧分散寝具（身体の形にフィットするように身体が沈み込むマットレス）を用いたりして、皮膚にかかる力を分散させます。

このような予防を行なっても褥瘡ができてしまった場合に私たち『褥瘡防止対策チーム』が早期治癒にむけた適切な治療、処置を行ないます。そして、褥瘡を悪化させない看護ケアの指導を行ないながら、毎週火曜日の午後に回診を行なっています。回診は、形成外科医師、皮膚科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、皮膚・排泄ケア認定看護師の総勢9名で行っています。回診以外では、毎月委員会を開催し、回診メンバーの他に、臨床検査技師・理学療法士・事務職も交え、さまざまな角度から褥瘡を治癒するための話し合いを重ねています。また、毎月医療スタッフに対して褥瘡予防と治療についての勉強会を開催し、知識と技術の向上に努めています。

今後も私たち『褥瘡防止対策チーム』は、チームという“絆”を大切に、結束を深め日々精進していきたいと思っています。

オレンジ色の集団を見かけましたら、お気軽に褥瘡についてご相談ください。



お知らせコーナー

□地域完結型医療

横浜医療センターは、「急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指す」ことを理念として掲げています。

生活習慣病の増加などの疾病構造の変化や医療技術の高度化などにより、地域の医療機関の機能分担が今後さらに進んでいきます。そうした中で、患者さんが、住み慣れた地域で、発症から急性期、回復期を経て在宅に帰るまで、その様態に応じて切れ目なく質の高い医療が受けられるようにすることが、地域完結型医療です。これを実現するためには、地域の医療機関の先生方との連携、なかでも日常的な診療情報の共有がとても重要です。

□紹介状が必要な理由

当院では、かかりつけ医からの紹介状をお持ちいただき受診されることをお勧めしています。その理由は、紹介状が、かかりつけ医の先生と当院の医師とが診療情報を共有するための重要な「手段」であり、これによって切れ目ない医療を提供することができるからです。逆に患者さんの症状が安定したときは、当院の医師からかかりつけ医の先生に紹介(診療情報の提供)を行っています。

□地域医療支援病院として

当院は、地域医療支援病院の認定を受けています。その役割は、かかりつけ医の先生から紹介のあった患者さんに対する医療提供を始め、病床や医療機器の共同利用の実施、そして地域の医療従事者の皆さんへ研修機会を提供することなどです。

こうした日ごろの連携は、災害時の医療体制でも大きな力を発揮します。引き続き、地域の医療機関の先生方のご協力をいただきながら、積極的に地域医療全体の充実を目指していきます。

「七草粥」

栄養管理室長 矢ヶ崎 栄作

1月7日、7つの野草を摘んでおかゆに入れる「七草粥」。いかにも風流な慣わしですが、セリ、ナズナ、スズナ、スズシロ、ホトケノザ、ゴギョウ、ハコベラ。なんと鎌倉時代から今に伝えられているというほど由緒正しいものです。魔よけ、豊作祈願、無病息災祈願等。さまざまな願いがこめられた七草粥は、同時に「医食同源」の知恵を生かした究極の健康食でもあります。もともと1月7日は、3月3日の「桃の節句」などと並ぶ「五節句」のひとつ、「人の日」の節句です。古来、中国では吉凶を占い、1年間の無病息災を祈る日だったといえます。そのための特別な碗。野草を入れた吸い物をこしらえる風習がありました。日本に伝わったのが、平安時代初期。ただし、当時は野草ではなく、米、アワ、キビ、ヒエ、ミノ、ゴマ、アズキの「七穀」を入れるのが通常でした。穀物が野草へと姿を変えたのは、鎌倉時代。それぞれ名や形から縁起物とされ、尊ばれていました。

セリ…競り勝つ ナズナ…なでて汚れをはらう ゴギョウ…仏体 ハコベラ…繁栄がはびこる
ホトケノザ…仏の安座 スズナ…神様を呼ぶ鈴 スズシロ…汚れのない純白さ

七草のいろいろ

昔は調理はあらかじめ、6日の晩におこなうのが慣わしだったそうです。その際、すりこぎ、おろし金、火ばし、杓子などの調理器具をまな板の上に揃えておきます。そして野草を49回刻みながら、「七草なずな、唐土の鳥が日本の土地に渡らぬ先にストントン」などと歌っていたそうです。なんと不思議な風習ですが、これは邪気をはらうためのいわば、おまじないのようなもの。「唐土の鳥」とは怪物のことで、その血が着物にかかると疫病になるという言い伝えがありました。当時、流行り病は中国からもたらされると言われていました。「邪な鳥を追いはらって、家族みんな無事で暮らしたい」一家の主婦は、そんな願いをこめながら粥を作りました。出来上がると一晩、神棚に供えるのが決まりだったようです。さまざまな願いがこめられた「七草粥」ですが、現代人にとってもありがたい慣わしといえます。なにせ、カロリーは1杯で約140kcalと低い。お正月のご馳走でオーバーした体重をもとに戻すには、まさにこいのダイエット食です。それに加えて「七草粥」には、意外な薬膳効果も秘められています。

①健胃効果 ②むくみ解消 ③食欲増進 ④利尿作用 ⑤リラクゼーション効果
⑥風邪の諸症状緩和(解熱、去痰、せき止め・気管支炎予防・扁桃腺炎予防)
⑦二日酔い解消 ⑧ビタミン・ミネラル補給(ビタミンA・B・C・K、カルシウム、カロチン、鉄分)等

様々な効果が期待できます。今夜の献立はこれで決まり、召し上がってみてください。



診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考	
外来受付	小児科	鈴木 陽一 榑佐 香織 交代医師	菅井 和子 矢竹 曜子 榑佐 香織 交代医師	菅井 和子 交代医師	鈴木 陽一 矢竹 曜子 交代医師	交代医師① 榑佐 香織 交代医師	①:第1・3・5週 福山 綾子、第2・4週 小林 慈典
	心臓血管外科 形成外科	金子原 幸宏	休診日(手術日)	東館 雅文 休診日(手術日)	※東館 雅文 村下 一晃	東館 雅文 村下 一晃	※木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)
	整形外科	瀧上 秀威 石ヶ坪 康 鈴木 宙	日塔 寛昇 伊藤 りえ 日野 勝利 ★瀧上 秀威	瀧上 秀威 高 倫浩 鈴木 宙	日塔 寛昇 林 陸 伊藤 りえ	石ヶ坪 康 林 陸 高 倫浩 ★日塔 寛昇	★:予約患者のみ。
外来受付	総合内科外来	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	
	糖尿病内分泌内科	蘇原 慧美	小野 佐知子	宇治原 誠 ◎蘇原 慧美	宇治原 誠	交代医師	◎:Aブロックで診察。午前のみ。 ■:午後の予約のみ ▼:Aブロックで診察。 初診には紹介状が必要。 ②:第1・2週 田中 直秀、第3・4・5週 岩出 和徳
	神経内科	古宮 裕泰	園井 美紗子	上木 英人	岡本 光生 ■栗橋 洋子	高橋 竜哉	
	腎臓内科	交代医師		山名 比早子	松下 啓		
	呼吸器内科	後藤 秀人	▼榑原 基史	山川 泰	休診日(検査日)	須藤 成人	
	消化器内科	交代医師(初診)	小林 重也子(初診)	小松 達司(初診)	松島 昭三(初診)	交代医師(初診)	
	循環器内科	塩原 康正	鈴木 大輔	松島 昭三	野登 はるか ■小松 達司	小松 達司	
	リウマチ科	森 文章 内田 吉枝	岩出 和徳 網代 洋一(午前) ■逸見 隆太	田中 直秀 服部 英敏	田中 直秀(午前)	岩出 和徳 ■森田 紗恵	
	外科	出口 治子 清水 哲也 榑原 里沙 山本 悠史	初診:田中 直秀 宮城 瑠美子 ■出口 治子	休診日 (検査日)	初診:岩出 和徳 宮城 瑠美子 ■出口 治子	初診:森 文章 出口 治子 ■宮城 瑠美子	
	呼吸器外科		安藤 耕平 野間 大督 交代医師③	交代医師④	◆向原 茂雄	坂本 和裕 野間 大督 藤津 和彦 市川 輝夫	ご紹介については外来日以外でも随時受け付けておりますので、直接ご連絡ください。 ③:第1・3・5週 岡田 富、第2・4週 宮原 宏輔 ④:第1・3・5週 坂本 雄大、第2・4週 谷野 慎 ◆:第5週は休診。 ◇:脳ドックの詳細はPM2:00～5:00の間に「医事 脳ドック受付」までお問い合わせください。
脳神経外科	休診日 (手術日)	手術日	◇脳ドック	手術日			
麻酔科 (ペイン・緩和)	田澤 利治		田澤 利治		田澤 利治		
外来受付	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	○佐々木 祐幸 手術日	○:予約外の診察には紹介状が必要です。
	眼科	木村 正彦 熊代 俊	榑 桂子 熊代 俊 手術日	木村 正彦 熊代 俊	木村 正彦 榑 桂子	休診日 (手術日)	火曜日は新患(要紹介状)・急患のみとなります。 (8:30～11:00)
	泌尿器科	本田 直康 奥野 紀彦	本田 直康 若田部 陽司	休診日 (手術日)	奥野 紀彦 若田部 陽司	本田 直康 高田 治子	
外来受付	皮膚科	宮田 聡子 船津 栄	宮田 聡子 船津 栄	宮田 聡子 手術日	宮田 聡子 船津 栄	宮田 聡子 船津 栄	水曜日午後は手術の為、入院患者の依頼はお断りしています。 至急診察が必要な場合は、電話をお願いします。
	心療内科	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	
	精神科	折田 真央	大橋 茉莉子 鈴木 将裕	古野 拓	山口 和己	土屋 美江 高石 政男	※月～金:初診の方は9時30分までに受付を済ませてください。(要紹介状、1日1名の予約制) 初診は左記の再診担当医師以外の医師が診察します。詳細は精神科外来にお尋ねください。
D	産婦人科	長谷川 瑛 太田 幸秀	奥田 美加 若林 玲南	窪田 真志 奥田 美加	栗杉 輝彦 高木 偉博	若林 玲南 長谷川 瑛	初診には紹介状が必要。
	歯科口腔外科	塩入 重彰 (再診のみ)	塩入 重彰 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	休診日 (入院手術日) ※急患は二連絡ください。	塩入 重彰 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	塩入 重彰 塩津 千絵 (再診のみ)	初診は、火・水曜日8:30～11:00。初診急患は随時受付(紹介状から直接連絡ください)。再診は完全予約制。再診急患は電話をお願いします。 初診:紹介状又は診療情報提供書を持参してください。 詳細については歯科口腔外科部長にお問い合わせください。
	小児科	アレルギー検査 シナス(0～4月) (矢竹) アレルギー-(菅井) 感染免疫・アレルギー (小林)	腎臓外来(⑤) フォロアップ外来 (矢竹) アレルギー-(鈴木) アレルギー-(小畑)	アレルギー-(菅井) 予防接種(交代制) 13:30～14:30 循環器外来 (鈴木)(月1回)	フォロアップ外来 (福山) 1カ月健診 (矢竹) 1カ月健診 (交代医師)	アレルギー-(内田)	⑤:第1・3週(火)長濱 ⑥:第1・3・5週(金)本井
専門外来 (予約制)	整形外科		スポーツ整形外科(株)			スポーツ整形外科(株)	毎週15:00～16:00
	神経内科		◎頭痛外来 選食・嘔下外来 物忘れ外来				地域連携室を通して完全予約制 ◎第2・4週(頭痛外来)、第1・3・5週(選食・嘔下外来)
	糖尿病内分泌内科	糖尿病連携バス外来		糖尿病連携外来	糖尿病連携外来		
	腎臓内科	腎臓連携外来		腎臓連携外来	腎臓連携外来		
	感染症内科		感染症外来				
	看護部			糖尿病看護ケア外来	糖尿病看護ケア外来		
	外科		スキンケア外来	スキンケア外来	乳がん検診		
	耳鼻咽喉科			補聴器外来(午後)			
	循環器科			パースメカ外来	睡眠時無呼吸 症候群外来		
	精神科	物忘れ外来	助産師外来	助産師外来	助産師外来	物忘れ外来	初診には紹介状が必要。地域連携室を通して完全予約制
産婦人科	助産師外来 母乳外来(午後) ▼母親教室	助産師外来 母乳外来(午後)	助産師外来	助産師外来 母乳外来(午後)	助産師外来 母乳外来(午後)	▼:午後のみ。夫立会教室は第2・4週土曜日、第3週日曜日。 地域連携室を通して完全予約制(第1金曜日のみ) 9:00～11:00 地域連携室を通して完全予約制	
呼吸器外科					アスベスト外来(坂本)		
放射線科	海津 久		榑多 政治	向井 佑希			

初診受付: 平日 8:30～10:00
再診(予約外)受付: 平日 8:30～10:00
休診日: 土曜・日曜・祝日・12月29日～1月3日
地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

◆編集後記◆

今年甲午の年です。
午は陰陽の陽の極地で太陽が最も高く上がった状態を示すので、お昼の12字を「正午」といいます。勢いが盛んなので、十二支の動物では馬のイメージを当てはめたのでしょう。
今年、11月に国立病院総合医学会がパシフィコ横浜で開催されます。何かと忙しくなると思いますが、勢い良く頑張りましょう。(S. H)